

## 第6章

### 世界のITS動向

本章ではITS Japan国際委員会及び事務局(国際グループ)の活動の中から得られた世界のITS動向について概観すると共に、ITS Japanの国際活動実績を紹介する。(自動運転に関する国際活動に関しては第5章を参照)

## 1. 国際活動

### 1) ITS世界会議

ITS世界会議は、1994年に第1回のITS世界会議がフランスのパリで開催されて以来、開催地を欧州、アジア太平洋、米州の3地域として持ち回りで順に開催されている。ITS世界会議は、ITSに関わる産官学の関係者が一堂に会し、専門家会議・展示・デモンストレーション等を通して、時宜を得た議論を行い、課題を抽出し、技術開発・普及促進への道筋をつける場として機能してきた。初回会議開催当時は主に道路における交通運輸の安全や輸送効率化が議論の対象であったが、その後、鉄道や海運、空運(ドローン等)も組み合わせたマルチモーダルな輸送が加わり、近年では交通運輸よりも更に広い「人とモノの移動」全体や、スマートシティと関連深いことから街づくりまで視野に入ったテーマが会議で議論されてきた。

### 2) 三極の連携

ITS Japanは、ITS America及びERTICO-ITS Europe(以降ERTICO)と覚書を締結し、三極共同でITS世界会議の開催に携わっており、会議の質向上を図るため、三極で戦略目標を共有して企画・運営を推進している。戦略目標は、政策立案者・一般市民等幅広くITSに関係するステークホルダーへ訴求すること、すべての輸送手段を対象とすること、参加国数の拡大を図ること、論文の質向上を追求すること、及び出展者のビジネスに寄与することによって、ITS世界会議の付加価値を高めることである。

企画立案に当たっては三極での連携を強化及び効率的に推進するために、ITS Japan、ITS America、ERTICOそれぞれのCEO(Chief Executive Officer)で構成する「3CEO会議」を毎月実施して方向付けを行い、国際プログラム委員会(IPC: International Program Committee)で世界会議のプログラムの細部の調整、最後に世界会議理事会(WCBOD: World Congress Board of Directors)で機関決定する、というプロセスを採用している。

図表6-1-1 ITS世界会議開催地

| 回  | 開催年    | 国名等              | 都市名      |
|----|--------|------------------|----------|
| 1  | 1994   | フランス             | パリ       |
| 2  | 1995   | 日本               | 横浜       |
| 3  | 1996   | 米国               | オーランド    |
| 4  | 1997   | ドイツ              | ベルリン     |
| 5  | 1998   | 韓国               | ソウル      |
| 6  | 1999   | カナダ              | トロント     |
| 7  | 2000   | イタリア             | トリノ      |
| 8  | 2001   | オーストラリア          | シドニー     |
| 9  | 2002   | 米国               | シカゴ      |
| 10 | 2003   | スペイン             | マドリード    |
| 11 | 2004   | 日本               | 名古屋      |
| 12 | 2005   | 米国               | サンフランシスコ |
| 13 | 2006   | 英国               | ロンドン     |
| 14 | 2007   | 中国               | 北京       |
| 15 | 2008   | 米国               | ニューヨーク   |
| 16 | 2009   | スウェーデン           | ストックホルム  |
| 17 | 2010   | 韓国               | 釜山       |
| 18 | 2011   | 米国               | オーランド    |
| 19 | 2012   | オーストリア           | ウィーン     |
| 20 | 2013   | 日本               | 東京       |
| 21 | 2014   | 米国               | デトロイト    |
| 22 | 2015   | フランス             | ボルドー     |
| 23 | 2016   | オーストラリア          | メルボルン    |
| 24 | 2017   | カナダ              | モントリオール  |
| 25 | 2018   | デンマーク            | コペンハーゲン  |
| 26 | 2019   | シンガポール           | シンガポール   |
|    | 2020   | 新型コロナウイルス影響のため中止 |          |
| 27 | 2021   | ドイツ              | ハンブルグ    |
| 28 | 2022   | 米国               | ロサンゼルス   |
| 29 | 2023   | 中国               | 蘇州       |
| 30 | 2024   | UAE              | ドバイ      |
| 31 | 2025   | 米国               | アトランタ    |
| 32 | 2026   | 韓国               | 江陵       |
| 33 | 2027予定 | 英国               | パーミンガム   |
| 34 | 2028予定 | 米国               | オーランド    |
| 35 | 2029予定 | 台湾               | 台北       |

図表6-1-2 三極3CEOの写真

左からITS AmericaのLaura Chace氏、ERTICOのJoost Vantomme氏、ITS Japanの山本専務理事



### 3)第31回 ITS世界会議2025アトランタ

2025年のITS世界会議は、米国ジョージア州アトランタで8月24日(日)～28日(木)の5日間、“Deploying Today, Empowering Tomorrow”をテーマに開催された。61の国や地域から約6,000名の会議登録者を集めた。登録者数上位は、米国・日本・韓国・台湾・英国からであり、前年2024年のドバイ会議で3番目であった中国からの参加者がほとんどいなかったことは残念であった。日本からの参加者数はここ数年間、主催国に次いで2番目に多く、展示会場での出展規模とともに日本の存在感を示していた。

図表6-1-3 Georgia World Congress Center A棟  
ITS世界会議2025アトランタ会場入口



米国での世界会議開催は、図表6-1-1に記載の通り2022年ロサンゼルス以来となり、発表の半数以上が米国からのものとなった。DEI(Diversity, Equity & Inclusion)を連邦政府施策実施の強固な前提としていた前回の開催と比べ、政権交代の影響を受けた今回の会議における発表では、DEIは大幅にトーンダウンしたものの、米国で交通事故犠牲者の多い歩行者や高齢者などのVRU(Vulnerable Road Users：脆弱な道路利用者)保護に関する議論は、V2Xデモンストレーションの中にも見られたように大変活発であった。

#### (1)発表内容(抜粋)

多数の発表の中から、開会式及びプレナリー・セッションでの内容のみを紹介するが、他の会議セッションやテクニカルツアーにおいても重要で示唆に富んだ内容が多かったことを付け加えておきたい。

#### ①開会式

ITSアメリカCEOであるLaura Chace氏は「イノベーションは生活の基盤であり、交通技術は安全・効率・経済を支える。事故ゼロや誰もが使える交通ネットワークを目指し、ジョージア州では15億ドルを投資しインフラを刷新。ITS Americaは未来のモビリティに向けて技術と政策を推進する」と、冒頭挨拶を行った。

ジョージア州とアトランタにおける交通運輸管理者によるパネルディスカッションでは、C-V2X技術の活用により、路線バスや港湾物流の効率向上と安全・経済性の両立、都市間高速バス混雑ルートでの信号優先制御での運行効率と乗務員の負担軽減などの例が紹介されるとともに、高齢者・障害者向け乗車支援アプリの開発推進と、誰もが安心して移動できる都市づくりが強調された。

米州、アジア太平洋、欧州の各地域代表が順に挨拶した。米国運輸省 技術・研究担当官 Michel Halem氏は、「交通運輸分野ではすでに技術的な準備が整っており、安全性を守りながら技術導入を迅速に実施すべき。米国運輸省は規制の障壁を取り除き、革新を加速させる」と述べ、引き続き国家レベルでITSの導入を推進する姿勢を明確にした。

図表6-1-4

米・Halem氏 AP・久保田氏 欧・Hedberg氏



アジア太平洋代表として登壇した日本政府国土交通省物流・自動車局次長久保田秀暢氏は、ITS技術の進展と社会的利点、日本の取り組み、グローバルな協力の重要性について述べた。EU米国代表部モビリティ・交通担当公使参事官のKristian Hedberg氏は「EVの普及が進む中、欧州は『AI』『自動運転』『データ基盤の整備』を加速し、持続可能で競争力あるモビリティの未来を築く」と述べた。

最後に3地域のITS団体CEOによるディスカッションが行われた。AI・政策・地域連携の観点からITSの進化と課題が共有され、グローバルな協調の重要性も強調された。各CEOの発言要旨は下の通り。

●Laura Chace(ITSアメリカ)：「AIの進化が交通分野に革命をもたらしている。生成AIの登場により、物流、交差点安全、交通管理、インフラ点検など、活用範囲が急速に広がっている。」

●Joost Vantomme(ERTICO-ITS Europe)：「欧州では新たな政治リーダーシップのもと、ITSが重点分野とし



て位置づけられている。交通のレジリエンス、ユーザー包摂、AIスキルの強化が重要課題。」

● 山本昭雄 (ITS Asia-Pacific) : 「生成AIを活用していくためには、交通分野において具体的なサービスを意識した誰もが使えるデータ共有プロセスが必須である。」

図表6-1-5 左から司会、Laura Chace氏、Joost Vantomme氏、山本昭雄氏



## ② プレナリー (PL) セッション

### ● PL1

「コネクテッド&自動運転技術による安全な未来」をテーマに議論が行われた。Laurel Straub(State Farm保険)はユーザーニーズ重視と自治体の役割を指摘した。Kevin Ro(トヨタ北米)は消費者教育や研究共有、業界と政府の連携の必要性を述べた。Russell McMurry(ジョージア州運輸局)は小さな成果の積み重ねとCV2X技術普及、連邦資金の活用を強調した。Gonzalo Alcaraz(国際道路連盟)は車両よりエコシステム統合やインフラデジタル化を重視した。Anita Matuszewski(Transurban)は完璧を待たず実装し、安全情報の共有が重要であると述べた。

### ● PL2

「セキュリティに優れ相互運用可能なITSによって成長を実現」をテーマに議論が行われた。Peter Simhauser(NHTSA法務顧問)は自動運転車の連邦フレームワークの必要性を訴え、Carlos Braceras(ユタ州DOT長官)は技術投資の優先順位化を重視した。Kurtis McBride(Miovision CEO)はAIとデータによる渋滞解決を提案し、Michelle Quat(Verizon 5G推進担当)は5Gネットワークの利用準備完了を伝えた。Kristian Hedberg(EU代表)はEU内の相互運用性確保の重要性を述べ、Paul Riding(オークランド交通)はデジタルツインやデータガバナンスの重要性を強調した。Tyler Duvall(CAVNUE CEO)はAI搭載道路「Road 2.0コンセプト」を紹介した。

### ● PL3

「AIおよび先端技術によるレジリエントな交通システムの構築」をテーマに議論が展開された。Shaz Umer(米国運輸

省 戦略イニシアティブ担当ディレクター)は、米国運輸省の優先事項として「安全第一、常に革新」というビジョンを提示し、AIおよびレジリエンスが「交通の黄金時代」の推進力となることを指摘した。さらに、SMART Grants(5年間で5億ドル規模)およびARPA-I Ideas Challenge(10億ドル規模)といった交通関連技術支援策を紹介し、ウェストバージニア州での橋梁モニタリング事例から現場における安全意識の高さを示した。パネルディスカッションでは、David Swallow(南部ネバダ州地域交通運輸委員会)が、AIアルゴリズムを活用した渋滞・事故予測および迅速な対応手法について解説した。Angelos Amditis(ERTICO会長)は、ヨーロッパにおけるAI応用例として、鉄道の予測保守やAI支援型交通管理システムの開発に触れた。Kristin White(Google社)はGoogleの交通AI戦略における過去データ分析から予測的・予防的応用への展開を報告し、Jack Chao(台北市情報技術局長)は台北市におけるAIベースの交通管理・渋滞予測ツールの導入事例を提示した。Marc Williams(テキサス州運輸局)はテキサス州交通局のAI戦略計画、特にインフラ脆弱性評価と橋梁アップグレードの優先順位付けについて説明を行った。

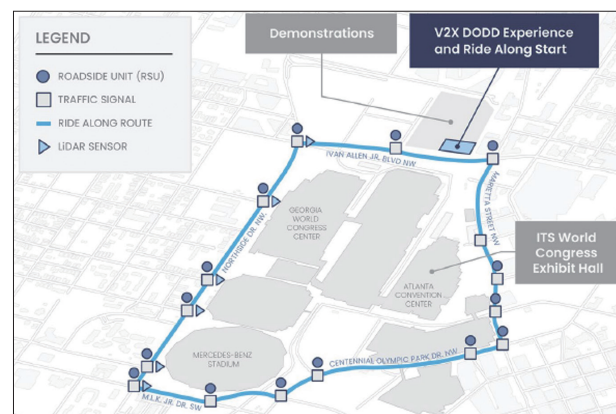
## (2) デモンストレーション等

### ① V2X Day One Deploymentデモンストレーション

ジョージア州アトランタ市中心部にある会場周囲の実道路路上で、ジョージア州交通局(GDOT)が整備し既に稼働中のV2X環境の試乗デモが実施された。GDOTの他に民間企業や大学等の13団体が展示及びデモを行った。図表6-1-6に示す試乗ルート上に、16台のスマート交通信号機、15台の路側ユニット(RSU)、6つのLiDARセンサー、その他の機器が設置され、各団体の車両及び車載器/スマホやタブレットにて試乗デモ等が行われた。

デモでは、V2I、V2V、V2P、V2Nのメッセージとアプリケーションとして、信号フェーズとタイミング(SpAT)、基本安全メッセージ(BSM)、個人安全メッセージ(PSM)などが利用され、SpAT/MAP、信号優先/優先解除制御、旅行者情報提供、VRU安全、センサーおよびRFIDベースのデモが行われた。

図表6-1-6 V2X Day Oneデモンストレーション交差点





図表6-1-7 交差点に設置されたV2Xインフラ装置点



本デモンストレーション用に設置された機器はジョージア州における設置の一部であり、州全体では1,700以上のRSUがアトランタとサバンナ周辺に密集して配置されている。一方の車両搭載ユニット(OBU)は限られた数がテスト用に展開されているのみである。

図表6-1-8 スタンドアロンの車載器



図表6-1-9 VRU検知と警告



なお、Southwest Research Institute(SwRI)のDr. Eric Thorn氏及びDr. Steve Dellenback氏からITS Japanに対し本デモンストレーションの説明を特別に実施頂いた。

## ②自動運転車両

ITS世界会議のイベントではなかったが、Uber/Waymo社のご厚意により、アトランタへ導入されたばかりの同社の自動運転車両に試乗する機会に恵まれた。Uberアプリで一般人の誰もが利用できるが、自動運転車は現地で人気のため、マッチングすることは稀である。

また、テクニカルツアーにおけるV2Xのデモにおいて、テスラ社のサイバートラックの自動運転も体験できた。Uber/Waymoとテスラの双方ともにV2Xを利用しない自律型自動運転であった。

図表6-1-10

### 実運用中のUberのWaymo自動運転車両(ジャガー I-PACE EV)



図表6-1-11 Uberアプリ(日本で普段利用しているアプリに現地到着後、自動で設定メニューが追加)



図表6-1-12 テスラ社サイバートラックを利用したデモ





### (3) 展示会

今回、世界から225の出展者を集めた展示会が開催され、中でも最大規模を誇った米国運輸省の展示においてV2Xを中心とした施策紹介が行われた。今年からITS Asia-Pacificに加盟し、初めてITS世界会議に出展を行ったITSインドも、積極的な展示の他、インド紹介の会議セッションを実施していたことが印象に残った。

日本からはITS Japanが企画するJapanパビリオン内にて、内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省(大臣官房)電気通信室、国土交通省道路局グループ、UTMS協会、VICSセンター、ITS情報通信システム推進会議、沖電気工業、KDDI、住友電気工業、ゼロサム、日立ソリューションズ、PTVグループジャパン、富士通、三菱電機、JTEKT、豊田通商、NEC、ITS Japanの全20社・団体(順不同)が出展した他、トヨタ、ホンダ、パナソニック・オートモーティブ、アイシン、デンソー、Forum 8の各社(順不同)が独自出展を行った。

筆者は初期のITS世界会議参加や開催準備、及び近年の会議開催に携わってきたが、世界会議の開催理念である「世界を知り己を知る」の魅力と実効性は、30年以上を経た今も褪せることなく、特に技術開発や実用化分野において、各国の諸政策や民間事業の検討に対し、依然として大きな役割を果たしているものと、今回のアトランタ世界会議への参加を通じ再認識した。

自国ファーストという言葉を頻繁に耳にする昨今だが、世界から学ぶ意義は不変的なものであると筆者は信じる。

[参考ウェブサイトや参考資料]

1) 第31回 ITS世界会議2025アトランタ公式 HP

<https://www.itsamericaevents.com/world-congress/en-us.html#/> (2025年1月時点で閲覧不可)

2) “Georgia DOT V2X Deployment&Day One Demonstrations”, Eric Thorn, Ph.D., Southwest Research Institute (SwRI)

図表6-1-13 Japanパビリオンリボンカット式にご参列頂いた皆さま、会場の様子

(前列左から)総務省 影井様、警察庁 成富様、デジタル庁 田中様、内閣府 中川様、ITS Japan 池内副会長、在アトランタ日本国総領事 前田様、国土交通省物流・自動車局 久保田様、ITS Japan 山本会長、ITS Japan 永易副会長、経済産業省 黒薮様、国土交通省道路局 竹下様、国土交通省物流・自動車局 家邊様、国土交通省大臣官房 田胡様



展示会場風景



展示視察ツアー風景



#### 4) 第32回ITS世界会議2026カンヌン準備状況

開催予定概要等を下に記す。

- ・テーマ：“Beyond Mobility, Connected World”
- ・会期：2026年10月19日(月)-23日(金)
- ・公式ウェブサイト：  
<https://2026itsworldcongress.org/ITS/120002/index.do>
- ・場所：韓国・江陵(カンヌン)市
- ・会場：江陵オリンピックパーク
- ・ホスト：韓国・国土交通省、江陵市

〈目標規模〉

- ・参加者数：6万人以上
- ・出展ブース数：420以上
- ・セッション数：150以上
- ・参加国・地域数：90以上

〈プログラム・トピックス〉

- I. Sustainability & Safety
- II. Inclusive & Social Connection

III. Shared Mobility & Resources

IV. Localized ITS

〈プログラム・カテゴリー (サブ・トピックス)〉

- 01. Connected & Automated Driving
- 02. Smart Infrastructure & Traffic Management
- 03. Mobility Services
- 04. AI-Driven & Data-Centric Systems
- 05. Policy, Governance & Standards

〈セッションフォーマット〉

- ・ハイレベルプログラム
- ・プレナリーセッション(PL)
- ・エグゼクティブセッション(ES)
- ・スペシャルインタレストセッション(SIS)
- ・テクニカル(TP)/リサーチセッション(RP)

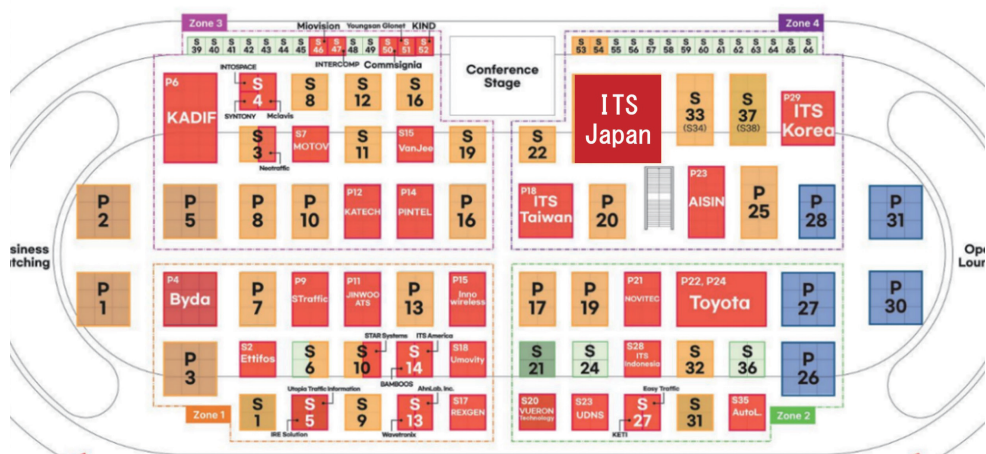
〈交流イベント〉

- ・歓迎レセプション：10月19日17：00-18：00
- ・Galaディナー：10月21日18：00-
- ・VIPディナー (招待のみ)：10月20日18：00-

図表6-1-14 Program at a Glance(2026年2月5日時点)

| Time        | October 19<br>Mon     | October 20<br>Tue | October 21<br>Wed | October 22<br>Thu               | October 23<br>Fri |
|-------------|-----------------------|-------------------|-------------------|---------------------------------|-------------------|
| 09:00-10:00 |                       | Plenary Session 1 | Plenary Session 2 | Plenary Session 3               | Sessions          |
| 10:00-11:00 |                       |                   |                   |                                 |                   |
| 11:00-12:00 | High-Level Roundtable | Sessions          | Sessions          | Sessions                        | Sessions          |
| 12:00-13:00 | Lunch                 | Lunch             | Lunch             | Lunch                           | Lunch             |
| 13:00-14:00 |                       |                   |                   |                                 |                   |
| 14:00-15:00 |                       | Sessions          | Sessions          | Sessions                        | Closing Ceremony  |
| 15:00-16:00 | Opening Ceremony      |                   |                   |                                 |                   |
| 16:00-17:00 |                       |                   |                   |                                 |                   |
| 17:00-18:00 | Welcome Reception     |                   |                   |                                 |                   |
| 18:00-      |                       | VIP Dinner        | Gala Dinner       | Special Performance (K-Culture) |                   |

図表6-1-15 展示会場レイアウト(2026-2-5時点)





図表6-1-16 デモンストレーション（2025年2月5日時点の暫定）

テクニカルツアーは2025年2月5日時点で未定。同世界会議への読者各位奮っての御参加を期待する

① カンヌン都市情報センター

①-1 Gangneung Urban Information Center



①-2 交通管制ルーム



② カンヌン自動運転ツーリスト用車両

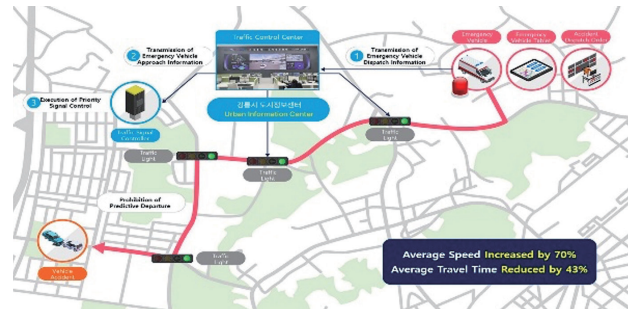
②-1 乗用車



②-2 連結ミニバス



③ 緊急車両優先信号システム



④ ITSインフラ

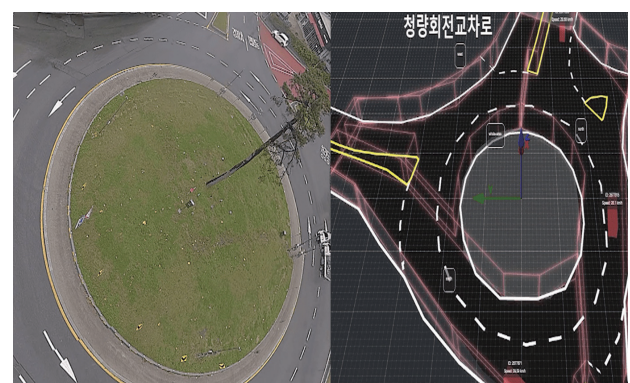
④-1 スマート横断歩道



④-2 スマート交差点



④-3 Lidar-basedランダバウト



## 5) ITSアジア太平洋地域(AP)フォーラム

### (1) ITSアジア太平洋地域(AP)フォーラムについて

ITS世界会議横浜(1995年)を契機として、アジア太平洋地域の連携強化を目的としたAPフォーラムが1996年及び1997年に開催された。その後、ITS Japanが事務局となり、アジア太平洋地域のITS組織が覚書を締結することでITS Asia-Pacific(ITS AP)を1998年に発足させている。ITS APは各ITS団体1名からなるITS AP理事会(APBOD: Asia-Pacific Board of Directors)を年2回(必要に応じ年2回以上)開催して重要事項を決定する。ITS APは、地域共通課題を共有すること、協力して課題解決を模索すること、国際機関と連携し具体的なITS展開の道を探ること、そして、協力して次世代のITSを担う人材育成を推進することをミッションとしている。2026年2月現在の加盟国・地域は、中国・タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・オーストラリア・ニュージーランド・香港・台湾・韓国・インド及び日本の12カ国・地域となっている。今後、ITS APの拡大のためこれまでITS組織の設立を支援してきたベトナムやフィリピンとの関係深化を改めて図ると共に、ITS AP事務局としてメンバと意思疎通を図りつつ彼らの動向を注視する。

ITS APの活動の中で最重要と位置付けられるのがアジア太平洋地域(AP) ITSフォーラムである。ITS APフォーラムは、ITS世界会議がアジア太平洋地域以外で開催される年に開催し(図表6-1-17を参照)、当該地域のITS関係者に情報交換・意見交換の場を提供すると共に、開催国・地域のITS普及促進のための場として活用することを目的としている。

### (2) ITS APフォーラム2025水原

第20回ITS AP Forumが2025年5月28日(水)-30日(金)の3日間、韓国水原市の水原コンベンションセンターで開催された。

会議参加人数は37カ国から4,158人、発表は50セッションにて241人、70団体・企業による展示会への出展など盛況に開催された。

会議概要を以下に記すが、今回のITS Forumから新たにITSインドがITS Asia-Pacificのメンバへ加わったことに加え、AI及びRUC(Road User Charge)などの新しい技術や政策のITS活用に関する議論が、ITS世界会議に先駆け今回のITS APフォーラムで活発に行われたことは意義深かった。



図表6-1-17 APフォーラム開催地

| 回  | 開催年  | 国名等      | 都市名      |
|----|------|----------|----------|
| 1  | 1996 | 日本       | 東京       |
| 2  | 1997 | オーストラリア  | ケアンズ     |
|    | 1998 | -        | -        |
| 3  | 1999 | マレーシア    | クアラルンプール |
| 4  | 2000 | 中国       | 北京       |
|    | 2001 | -        | -        |
| 5  | 2002 | 韓国       | ソウル      |
| 6  | 2003 | 台湾       | 台北       |
|    | 2004 | -        | -        |
| 7  | 2005 | インド      | デリー      |
| 8  | 2006 | 中国       | 香港       |
|    | 2007 | -        | -        |
| 9  | 2008 | シンガポール   | シンガポール   |
| 10 | 2009 | タイ       | バンコク     |
|    | 2010 | -        | -        |
| 11 | 2011 | 台湾       | 高雄       |
| 12 | 2012 | マレーシア    | クアラルンプール |
|    | 2013 | -        | -        |
| 13 | 2014 | ニュージーランド | オークランド   |
| 14 | 2015 | 中国       | 南京       |
|    | 2016 | -        | -        |
| 15 | 2017 | 中国       | 香港       |
| 16 | 2018 | 日本       | 福岡       |
|    | 2019 | -        | -        |
|    | 2020 | -        | -        |
| 17 | 2021 | オーストラリア  | ブリスベン    |
| 18 | 2022 | 中国       | 成都       |
|    | 2023 | -        | -        |
| 19 | 2024 | インドネシア   | ジャカルタ    |
| 20 | 2025 | 韓国       | 水原       |
|    | 2026 | -        | -        |
| 21 | 2027 | ニュージーランド | オークランド   |



図表6-1-18 ITSアジア太平洋地域(AP)フォーラム 開催報告



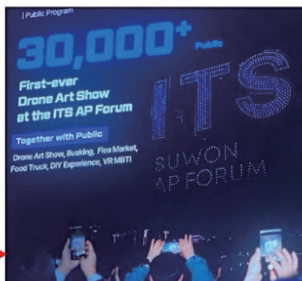
**第20回アジア太平洋地域ITSフォーラム2025水原 開催報告**



◇概要：

- ・会期：2025年5月28日（水）-30日（金）
- ・場所：韓国 水原市 水原コンベンションセンター
- ・会議テーマ：Hyper-Connected Cities by ITS
- ・公式ホームページ：<https://www.itsap2025.org/>
- ・ホスト：韓国国土交通省、及び、水原特別市
- ・参加人数：37カ国から4,158人
- ・発表：50セッションで241の発表
- ・展示会：出展70団体（177小間）
- ・ビジネス・プログラム：23会合、8セッション
- ・テクニカル・ビジット：81人の参加、6コース
- ・デモンストレーション：236人の参加、9デモ
- ・ドローンショーへの公衆観客：3万人+ →
- ・メディア紹介：50+ →



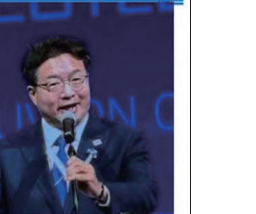




1

## 開会式



|                                                                                                                              |                                                                                                                               |                                                                                                                            |                                                                                                                       |                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>Jin-gyu-Ham,<br/>韓国・高速道路公社<br/>社長</p> |  <p>Won Kug BAEK,<br/>韓国・国土交通省<br/>副大臣</p> |  <p>Jae Joon Lee,<br/>水原特別市市長</p>       |  <p>Jae Sik Yi,<br/>水原特別市議会議長</p> |  <p>Tae-young Yeom,<br/>韓国・国会議員</p> |
|  <p>Joon-hyeok Kim,<br/>韓国・国会議員</p>       |  <p>山本昭雄<br/>ITS AP事務局長</p>                |  <p>Laura D. Chace,<br/>ITSアメリカ CEO</p> |  <p>APBODメンバーとの集合写真</p>           |                                                                                                                          |

## Plenary Session 1



## 街と街をつなぐ：都市交通の課題と解決



(Moderator) Keechoo Choi,  
韓国・亜細亜大学 理事長



Na Yoon Heo, Director,  
韓国・国土交通省



佐本 審査官  
国土交通省 物流・自動車局



Jeong hee Kim,  
韓国・インフラ技術高度化庁 長官



Alvin Chia, Senior Group Director,  
シンガポール 陸上交通庁

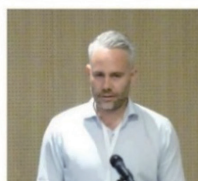


Thanattaporn Rasamit, Section Chief of  
Sustainable Transport Section, 国連ESCAP

## Executive Session 2



山本昭雄  
ITS Japan 専務理事



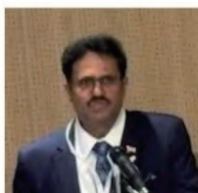
Armin Guttke, Chair/President,  
ITSニュージーランド



Howie Sim, Acting President,  
ITSシンガポール



Philip Tseng, Vice President,  
ITS台湾



Akhilesh Srivastava, President,  
ITSインド

“Exploring Current Status and Future  
Strategies on ITS in Asia-Pacific Region2”

## ニュージーランド：ES 2 各ITS-AP団体報告から



次回(第21回)ITS APフォーラム 5月5日(水・祝)-7日(金)

(日時は変更の可能性あり)





## ニュージーランド: ES 1 各ITS-AP団体報告から



### テクニカルビジット&デモンストレーション

- ・シティレールリンク – オークランドCBDの下の3.45kmのツイントネルレール。大型統合プロジェクト(2026年竣工)
- ・National Ticketing Solution – 全国規模のマルチモーダル統合発券システム
- ・EROAD – 世界初の全国的なRUC (Road User Charge) 電子道路利用者料金システム (2009年より利用開始)
- ・全電動バス基地 – オーストラリア最大で、2027年までに500+の電気バスを目指す(Kinetic & Auckland Transport)
- ・Ohmio Lift Shuttle – 5G接続、20人乗りの自律型電気公共交通機関
- ・電気フェリー – 世界初の認定水中翼船を含む完全電気旅客フェリー(2026年以降)
- ・オークランド大学 / 交通研究センター – ダイナミックワイヤレス誘導給電のリーダー
- ・AI Transport Tech – オークランドの交通オペレーションセンターで、HOVの取り締まり、脇見運転の検出、スマート信号操作のための世界初のAI/CCTVを提供

36

## シンガポール: ES 2 各ITS-AP団体報告から



### ERP2.0: 衛星測位ベースの渋滞課金 (ガントリーなし)

**ERP2.0: Nationwide GNSS-based Congestion Pricing**

ディスプレイ付き車載機

3:41 PM

ERP 2.0: NEW SATELLITE-BASED SYSTEM TO CURB ROAD CONGESTION

**All You Need to Know about ERP 2.0**

**What are the changes?**  
ERP 2.0 replaces the current ERP system that is reaching end of life.

**How does this benefit motorists? 利用者の便益は?**

- Improves traffic flow **交通流の改善**
- Enhances the driving experience by providing useful information like real-time traffic incident and road safety alerts **道路交通情報の提供**
- Improves driver awareness with notifications on bus lanes and speed cameras, to encourage safer driving **バス・レーンや速度取締カメラへの注意情報を提供**
- Facilitates seamless payments for roadside parking, usage licenses and checkpoint tolls **路側駐車を支払いにも利用可**

既存のERPを置換  
より柔軟な渋滞管理 (ガントリー位置の制約を受けない)

38

## インド: ES 2 各ITS-AP団体報告から



### 国家優先事項がITSを動かす

#### National Priorities Driving ITS

- Reducing road fatalities by 50% by 2030  
2030年までに交通事故死者数を15万人超から半減  
➢ Target to reduce by 50% - Over 150,000 fatalities every year
- Sustainable Transportation System  
CO2排出削減 (現在14%が交通運輸分野が排出)  
➢ Reduce Carbon Emission - Transportation system accounts for 14% Carbon Emission
- Digital India & Gati Shakti initiatives  
物流コスト削減 (現在約13%)  
➢ Reduce Logistics Cost - Currently around 13%
- Inclusive Transportation  
スマートで安価な公共交通システム-ラスト1マイルの接続性  
➢ Smart and cost effective Public Transportation System - With seamless last mile connectivity

### 鍵となるITSの整備

#### Key ITS Implementations

- AI-based Adaptive Traffic Signal Control Systems in 20+ cities.  
AIベースの交通流適応型交通信号制御システムを20都市以上に
- Advanced Traffic Management Systems (ATMS) across National Highways.  
高度交通管理センターを全国の高速道路に
- V2X and C-V2X technology trials in coordination with OEMs.  
V2XとC-V2X技術の実験をOEMと協同で
- Safe Driving Score (SDS) system pilots.  
安全運転スコア・システムの導入実験
- AI & sensor-based enforcement for over speeding, red light violations.  
速度違反、赤信号無視をAIとセンサで取締り
- Integrated Command & Control Centres (ICCCs) for real-time road safety.  
リアルタイム道路安全のための統合指令&管制センター
- AI, ML & IoT integration for predictive traffic and asset management.  
交通予測と資産管理のためのAI、機械学習、IoTの統合

44



## 6) その他

### (1) JICA(国際協力機構)との連携

2013年10月に東京で開催されたITS世界会議を契機に、ITS JapanはJICAと連携し当時の中期計画の主な取組み事項の一つである「国際連携と海外展開支援」を推進することになった。新型コロナの影響で一時期中断になったが2023年から再開した。2025年度は、以下の取り組みを実施した。

#### ①カントリーレポート聴講

2025年度課題別研修「ITS実務」研修のため、アルメニア、コードジボワール、ドミニカ共和国、エジプト、ガーナ、ルワンダ、タジキスタン、タンザニア、タイ、トルコ、ウガンダ、ジンバブエアの12カ国から13名(エジプトから2名)の研修員が来日された。2025年11月20日(木)9:00-15:55にはJICA東京センターにて、各国のITS取組み状況や課題についての報告(カントリーレポート)が行われ、JICAからITS Japan国際委員会に対してオンラインでの聴講を可能にして頂いた。ウガンダ・カンパラ市では日本のMODERATO信号制御方式が使われている他、各地それぞれで多様なITS導入が急速に進んでいることを実感できた。

#### ② ITS Japanによる研修講義

JICAからの依頼に基づき2025年11月25日(火)15:20-16:20 JICA東京センターにて、ITS Japan(国際グループ長・茨田)が「ITS Japan and International Collaboration ～How to accelerate the ITS societal movement～」というタイトルにて、①で述べた研修員に対し講義を行った。

#### ③ JICAプロジェクト研究発表会

2026年1月8日(木)15:00-16:30、ITS Japan会員向けイ

ベント2025年度 第6回ITS Japanコミュニティプラザにて、JICAから3名の方にご登壇を頂き「JICAによるITSの取組み」(JICA社会基盤部 交通運輸チーム 須原様)及び「JICAプロジェクト研究：交通管理DX」(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル 松沼様、(株)交通総研 佐藤様)のご講演を頂いた。世界各国各地の様々な情報を詳しく伝えて頂いた。詳細はJICA図書館(<https://libopac.jica.go.jp/images/report/P1000054304.html>)でも閲覧可能。

図表6-1-19 JICA研修風景



図表6-1-20 JICAプロジェクト研究発表会での登壇者





## (2) RUC調査

CO<sub>2</sub>排出などの環境対策に加え、道路交通の安全と円滑化の財源確保へも資するRUC(Road User Charge)について、海外での実施例や検討事例を2023年度から継続して調査を行っている。

2025年3月19日にITS台湾、ITSタイ、ITSニュージーランド、ITSインドの4団体が設立メンバとなり、「Asia-Pacific Road User Charging Alliance」が結成されたが、2026年4月にはITSオーストラリア、ITSマレーシア、ITSシンガポールの3団体が新たに加盟し計7団体がメンバとなる予定である。(本稿執筆時点の予定)

図表6-1-21 RUC AP Summit(2026年4月)登壇予定者

## Potential Speaker/Moderator

|                                                                                   |                                                                                   |                                                                                   |                                                                                            |                                                                                                                                                                                         |                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |           | <b>Moderator</b><br>  |                                                                      |
| <b>ITS India</b><br>President<br>Akhilesh Srivastava<br>(inviting)                | <b>ITS New Zealand</b><br>Deputy Chair<br>Lee Mckenzie<br>(inviting)              | <b>ITS Thailand</b><br>President<br>Dr. Tongkarn<br>(confirmed)                   | <b>RUC Alliance</b><br>Secretariate<br>Richard Wu<br>(inviting)                            | <b>ITS Taiwan</b><br>Board of Supervisors<br>Dr. YC Chang<br>(inviting)                                                                                                                 | <b>ITS Taiwan</b><br>Board of Directors<br>Jason Chang<br>(inviting) |
|  |  |  |           |                                                                                                        |                                                                      |
| <b>ITS Australia</b><br>Director<br>Richard Delplace<br>(inviting)                | <b>ITS Malaysia</b><br>President<br>Dato' Ismail<br>(confirmed)                   | <b>ITS Singapore</b><br>President<br>Howie Sim<br>(inviting)                      | <b>Software Tech</b><br>Institute, III<br>Director General<br>Dr. Henry Meng<br>(inviting) | <b>ITS Asia Pacific</b><br>Takehiko Barada<br>Sr. Vice President<br>(inviting)                                                                                                          |                                                                      |

図表6-1-22 ノースカロライナターンパイク社の発表記



本紙面では紹介しきれないが、ニュージーランド政府ではガソリン税の廃止を目指し、2027年から全車両350万台(\*1)へRUC制度を運用するという大きな発表の他、米国ノースカロライナ州でもV2X/コネクティッドを利用した料金支払い実証実験が発表されるなど、海外ではRUCへの取組みが着実に進展していることが伺えた。

(\*1)ニュージーランドでは、ディーゼル車、電気自動車、大型車の運転者は、ガソリン税ではなく走行距離に応じて料金を支払う義務が既に課せられている。

## (3) インドネシア国際交通サミット2025への参加

2025年11月26-27日にITSインドネシアがジャカルタで開催した「インドネシア国際交通サミット2025」(“Indonesia International Transport Summit(IITS) 2025”)において、ITS Japan山本専務がITS Asia-Pacific事務局長として開会式の招聘者基調講演を行った。講演内容は、ジャカ

ルタ宣言後のITS進捗、ITSインドネシアへの期待、今後の展望などであった。同会議は産業界、プロバイダー、学術・研究機関、政府関係者、海外ITS関係者など幅広い専門的なステークホルダーから500人以上を集め、インドネシア及びジャカルタの交通課題や今後の方向性を確認するほか、互いの今後の関係構築(MOU締結等)発表を行う機会でもあった。また“Coordinate Ministry for Infrastructure and Regional Development”という官庁の設立に伴い、2024年に開催されたITS Asia Pacific Forum後、インドネシア企業及び学会は政府との関係を強化している。

図表6-1-23 サミット開会式の会場風景



左からITSインドネシア Sabandarプレジデント、  
インドネシア政府 ユドヨノ大臣、ITS-AP 山本事務局長



## (4) ITSインドがITS-APへ正式加盟

2024年からITS Japan/ITS Asia-Pacificとして加盟支援を行ってきたITSインド(正式名称: ITS India Forum)が、2025年5月27日韓国・水原で開催されたITS Asia-Pacific理事会にてその正式加盟が承認された。既に活発な活動が行われているが、今後はITS世界会議への参加他、ITS AP各国・地域と連携したさらなる活動拡大が期待される。

図表6-1-24

左からMr. Akhilesh Srivastava, President, ITS India、  
山本専務理事、  
Dr. Shiv Kumar, Director General, ITS India





## (5) ITS中国年会2025海南

年に1回開催されるITS中国年会(ITS China Congress)は、「人工知能—ITS高品質発展の新たな原動力」をテーマに、2025年11月19～22日に海南省の海口市で開催された。中国のITS関連各省庁(交通運輸部、科学技術部、公安部、工業と情報化部、住宅と都市農村建設部、国家鉄道集团公司、民用航空局、発展改革委員会、自然資源部、国家郵政局等)、そして地方都市の交通管理者と道路管理者、及び全国の研究機関、大学、企業から約4,000人が会議に参加した。

図表6-1-25 第20回ITS中国年会 公式HPから



- 期間：2025年11月19日(日)～22日(水)
- 会場：海南省海口国際会展センター
- 主催：ITS China
- 協力：海南交通集団、上海電科智能システム、BYD、中国自動車技術研究中心、青島海信(Hisense)、深セン市都市交通企画設計研究センター、中国電信集団、中国汽研(重慶)、公安部交通管理科学研究所、民航データ通信有限公司、南京莱斯情報技術、金溢公司等
- テーマ：「人工知能—ITS高品質発展の新たな原動力」

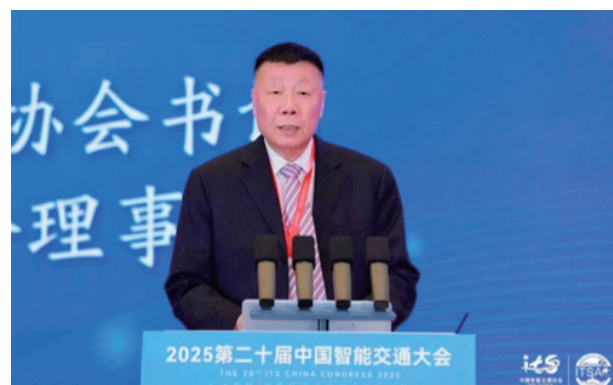
図表6-1-26 第20回ITS中国年会 会場風景



- 開会式挨拶
  - ・李朝晨(ITS China理事長)
  - ・何明(交通運輸部科技司副司長)
  - ・山本昭雄(ITS Japan専務理事)ビデオメッセージ
  - ・Laura Chace(ITS America CEO)ビデオメッセージ

- ・Joost Vantomme(ERTICO CEO)ビデオメッセージ
- ・王雲鵬(北京航空航天大学校長、ITS China次期理事長)

### 李朝晨 (ITS China理事長)



### 何明 (交通運輸部科技司副司長)



### 山本昭雄 (ITS Japan専務理事)ビデオメッセージ



### 王雲鵬(北京航空航天大学校長、ITS China次期理事長)





## ■年会のテーマについて:

今回の会議テーマ「人工知能—ITS高品質発展の新たな原動力」が決定された背景について説明する。

2025年8月、中国国務院が『「人工知能(AI)+」行動計画の実施に関する意見』を発表し、「AIと経済・社会の融合により、人と機械の協調、業界・分野を越えた融合、共創・共有を特徴とする経済・社会の新たな形態を形成する」目標を明確にした。「AI」を各分野で全面的に実施すべき重要な行動と位置づけ、「AI+」の6つの重点分野での実施加速を打ち出した。具体的には、「AI+科学技術」「AI+産業発展」「AI+個人消費」「AI+社会福祉」「AI+ガバナンス」「AI+国際協力」の6分野である。

図表6-1-27 中国国務院『「人工知能(AI)+」行動計画の実施に関する意見』



([https://www.gov.cn/zhengce/content/202508/content\\_7037861.htm](https://www.gov.cn/zhengce/content/202508/content_7037861.htm))

上記のAI開発に関する政策方針を徹底し、交通運輸分野におけるAIの革新的な実用化を加速させるために、交通運輸部は6つの省庁(国家発展改革委員会・工業情報化部・国家データ局・国家鉄道局・中国民用航空局)と共同で、交通分野における「人工知能+交通運輸」の実施意見を発表した。同意見では、人工知能と交通運輸の深い融合を推進することが質の高い発展を実現するための鍵であると強調し、2027年までに人工知能を交通運輸業界の典型的なシナリオで広く応用すること、および2030年までに人工知能を交通運輸業界に深く融合させるという具体的な発展目標を提示した。「AI+交通運輸」の典型的なシナリオについて、①運転支援システム、②スマート鉄道設備・システム、③港湾のスマート化とスマート海運、④スマート民間航空、⑤郵便・宅配便のスマート化、⑥交通インフラのスマート建設・維持管理、⑦スマート物流のデジタル化等、7つの重点分野に焦点を当てている。

図表6-1-28 中国交通運輸部「人工知能+交通運輸」実施意見



([https://xxgk.mot.gov.cn/jigou/kjs/202509/t20250925\\_4177256.html](https://xxgk.mot.gov.cn/jigou/kjs/202509/t20250925_4177256.html))

また、「重点イノベーションプロジェクト」として、①主要幹線道におけるトラックの自動運転、②内陸水運船舶の自律編隊航行、③道路における重大災害の応急対応、④道路フリーフロー料金徴収(GNSS+ナンバープレートの画像識別+携帯電話網でのモバイル支払い)、⑤高速リニアモーターカーシステム、⑥低空における陸空連携の「6大イノベーションプロジェクト」を具体化し、「第15次五カ年計画(2026~2030年)」期間中に全面的に展開するとしている。